

令和5年度 二戸地域県立病院運営協議会 開催結果（要旨）

1 開催日時

令和6年1月23日（火）14:00～15:25

2 開催場所

岩手県立二戸病院 地階大会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 委員

田中 辰也	藤原 淳	小野寺美登	山本 賢一	晴山 裕康
阿部 博	森谷 俊樹	山口 金男	大道 正樹	田名部晴夫
日向 和彦	佐藤美沙子	三浦 和枝	永井美保子	田口ケイ子

(2) 事務局

医療局	医療局長 小原 重幸	医療局次長 佐々木亨	経営管理課総括課長 熊谷 正信
	業務支援課総括課長 千葉 直樹	医師支援推進室	医師支援推進監 尾形 憲一
二戸病院	院長 小笠原 敏浩	事務局長 鈴木 清志	総看護師長 福島 京子
	副院長 及川 浩	副院長 高橋 浩	副院長 小成 晋
	副院長 西山 理	副院長 御供 真吾	事務局次長 北田 真紀
	医事経営課長 遠藤 健一	総務課長 澤口 博樹	
一戸病院	院長 佐々木 由佳	事務局長 高橋 和彦	総看護師長 清水 幸代
軽米病院	院長 葛西 敏史	事務局長 戦場 博和	総看護師長 上山 純子

4 議事

(1) 開会（事務局）

(2) 委員紹介（事務局）

(3) 会長、副会長の互選（事務局）

事務局から、会長に藤原二戸市長、副会長に森谷二戸保健所長を推薦する旨を提案し、委員から異議はなく互選

(4) 会長あいさつ（藤原二戸市長）

(5) 二戸病院長あいさつ（小笠原院長）

(6) 医療局長あいさつ（小原医療局長）

(7) 議事

県立病院運営協議会等要綱に基づき、藤原会長が議事を進行

- ① 県立病院の現状と課題について医療局長から、二戸地域における県立病院の運営について二戸病院長、一戸病院長、軽米病院長及び二戸病院事務局長から説明

〔質問・意見等〕

○ 山本委員

岩手県は全国的に見ても人口に対する医師の比率が低いが、今後医師不足を解消していくための県の考え方を伺いたい。

○ 小原医療局長

奨学金養成医師等の取組みにより医師数は少しずつ増えてきているところ。医師の絶対数の不足と併せて、地域偏在や診療科偏在の解消について併せて考えなければならない。地域偏在については奨学金養成医師を県北・沿岸部に特例的に数年間配置する制度や、診療科偏在については、例えば産婦人科等では奨学金金額の増額、また周産期センターに特例的に配置し充実を図るといったことに取り組んでいる。引き続き医師招聘にも取り組んでおり、絶対数の確保に努めている。

○ 山本委員

自殺者数について、最近再増加傾向にあるが、医師数については専門分野の割合等についても勘案しながら増やしていただきたい。当町でも取り組んでいるが、やはり専門の医師に中核になっていただき、お力をいただきながら取り組んでいきたい。

○ 佐々木一戸病院長

従来から当地域は自殺者が多い。昨今ではゲートキーパー、住民の方々の意識向上の活動が重要である。医療以外の様々な窓口の必要性や、また高齢化率ともマッチしており高齢者の自殺も多いことから高齢者対策も必要といった意見もあり、医療以外の取組みの充実が必要と考える。医療では県立病院の外来の実施や、精神保健相談では医大から分析いただいているが、これは二戸市とも連携して対応しており、今後も実施していきたい。

○ 山口委員

社会福祉協議会では、地区を回って様々な問題をお聞きしている。高齢者が多く、年齢を重ね就労が難しくなり自信を失い、自ら命を絶つのが農家の方の典型的な形である。働けなくなっても生きる力が出るような励ましや活動をしていく必要がある。世の中には様々な活動があるが、そこまで辿り着かないといったことが見えてきている。今後も継続して繋げる活動を行っていく。

○ 晴山委員

九戸地域診療センターは常勤医1名であり毎年増員をお願いしている。医師不足について、県内全体・二戸地域で具体的に何人不足しているか伺いたい。また経営収支について、今年度の二戸地域県立病院の赤字は昨年度の倍となっているが年度末でどうなるか、また赤字額の要因について伺いたい。

○ 小原医療局長

医師数について、岩手県では医師確保計画としてマクロで作成しているが、医療局ではそれを落とし込む形で経営計画を策定しており、中長期的に令和6年度までの計画を作成している。計画に対し順調に確保している。二戸地域となると人口減少、地域事情、診療科偏在を見ながら医師を配置していくこととなるが、具体的な数字は持ち合わせていない。

○ 鈴木事務局長

二戸病院の経営の見通しとしては、昨年度と同様で推移している。昨年度はコロナの補助金が多く入ったため数字が良く見えているもの。今後入院患者数が増加していく可能性があるが、補助金が少ないため厳しい見通し。県立病院は、全体で収支を考えるものとなっている。

- ② その他
無し

[質問・意見等]

- 山口委員

県立病院とかかりつけ医について。この10～15年間で、県立病院での受診には紹介状が必要であると住民の考え方も変わってきている。人口減少や高齢化により患者数が減少しているが、医師の働き方改革で医師の勤務時間短縮も求められる中、どのような対応で安定した経営を図っていくのか伺いたい。

- 小原医療局長

人口減少、医療人材も中々増えない中、医療の高度専門化が益々進んでいるような状況である。岩手県保健医療計画では来年度、第8次医療計画がスタートするが、がんや脳卒中、心疾患等について、二次医療圏を超えた「疾病事業別医療圏」という検討がされている。そういった高度な医療を、大きな括りの中で資源集中・機能集約し専門性を高めて安定的に受けられるようにしていく、一方で身近な医療を地域でしっかり受けられるようにしていくということで、機能分担・連携強化で機能の見直しをする、そういうことをしながら企業全体の経営を考えていかなければならない。

- 山口委員

医療崩壊に繋がらないよう頑張っていたきたいのが住民の願いである。医療というのは民間企業とは質が異なるが、民間同様医療人材も不足しており、そういったことを考えた時に医療の経営基盤が重要であり、ご苦労お察し申し上げます。

- 小笠原二戸病院長

本日はたくさん意見をいただき感謝申し上げます。委員の方々の意見をしっかり踏まえ、更に建設的な病院作りをしていきたい。何かあれば意見をいただきたい。本日はありがとうございました。

(8) 閉会（事務局）